

一 教学入門 ⑧ 信心と生活

※信心と生活について、語群から選んで次の文章を完成させなさい。

御書に「御みやづかいを（法華経）とをぼしめせ」とあるように、日々の生活がそのまま（仏道修行）の場であり、（信心）根本の生き方を示す場です。
現実の戦いが（仏界）の生命を涌現させる機縁となり、生命変革の舞台になります。信心で開拓した生命力で生活そのものが変革されていく。
創価学会ではこの精神を（信心即生活）と呼んでいます。

義務	責任	苦役	宿命	法華経	仏道修行	信心即生活
日蓮大聖人	釈尊	信心	仏界	菩薩界	人界	

※人の振る舞いについて、空欄に適切な言葉を入れて次の文章を完成させなさい。

大聖人は「教主釈尊の出世の本懐は（人の振舞）にて候けるぞ」と仰せです。

釈尊が仏法を説いた根本目的は、人としてどう生きるかであった。社会にあって良識ある振る舞いを貫き、人格の輝きで職場・地域など身近な人々から信頼される存在になることが信仰の証しです。

最高の人の振る舞いとは、人を（敬う）行動である。

万人の生命の中にある（仏界）の生命を尊重し、万人を敬っていく行動です。

これを法華経では（不軽菩薩）の実践として説いています。

※次の文章を読んで正しいものには○、間違っているものには×をつけなさい。

- (×) 現代においては社会構造が進化しているため、生活のスタイルによっては生活と信仰を別々のものとして分けて考えることも必要である。
- (○) 不軽菩薩はすべての人の中に秘められている仏の生命を敬って礼拝行を続けた。
- (○) 不軽菩薩の実践は、暴力を否定し、対話によって社会変革を実現する日蓮仏法に通じている。
- (×) 実生活では仕事は個人の生活費を得る手段なので、まず個人の経済革命を行って信仰活動を行う時間を確保することが重要である。
- (○) 社会を変革するためには人間を蔑視する思想と戦い、善を広げることである。